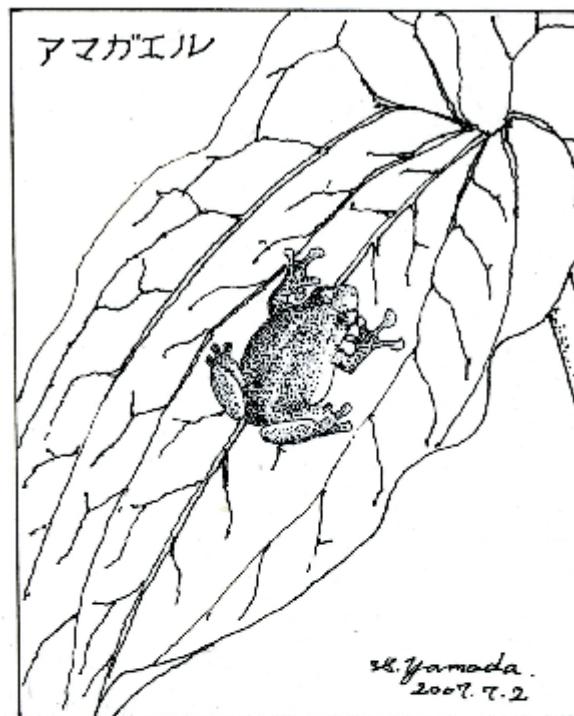


どんびま

2007年7月12日発行
発行者 椈の湖農業小学校

ねじ花

田の畦や道端の土手にねじ花が咲いた。
小倉百人一首の中に「みちのくの忍ぶもじずり誰ゆえに乱れそめにし我ならなくに」と詠われた、ラン科の花「もじずり」のこと。
ピンクの小さな小さな花がらせん状に連なって咲くのが、ひとつの花にも見える。
孫を連れて写真を撮りに行った。ほっそりとした可愛らしい姿で雑草の中に咲いている。子どもとのツーショットが良く似合う。
外来種の派手な花が道路に沿って増え続けている反面、在来の小さな草花がだんだん姿を消していつの間にか消えてしまっている昨今。
日本の文化模様にも似て悲しい。 (草)



アマガエル

近所の人から「白い蛙がいる」との知らせを受け見に行くと、白いプランターにくっついて驚くほど白くなったアマガエルであった。サトイモやアジサイなどの葉っぱにいるときは鮮やかな緑色、物干し竿にくっついていたりときは灰色、庭石にいるときは褐色など等、環境に合わせて体色を変えカモフラージュの名手。

雨の降りだす前に、クエツ、クエツ、クエツ、と鳴いて雨を予告してくれることはご存知のとおりである。体の大きさは4センチにも満たない。
青蛙おのれもペンキぬりたてか 芥川龍之介

7月授業日のご案内

日程	7月22日(日)
受付	9:00 ~ 9:30
始めの会	9:30 ~ 9:40
授業 (畑仕事)	9:40 ~ 11:30
昼食 (加-ライ等)	11:30 ~ 13:00
授業	13:00 ~

キャンプの相談

カブトムシの運動会

かかし作り

終わりの会 15:00 ~ 15:15

締め切り 7月18日(厳守)

カブトムシは育ってますか。運動会をしますので持ってきて下さい。

かかし作りの準備(先月お話したように、かかしコンクールをします。)

骨組みは準備しますので、頭部、帽子、着物などは各自で準備、工夫して下さい。

問い合わせ・緊急連絡 TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362(山内總太郎)

TEL 0573-75-2109(椈の湖自然公園管理棟)当日のみ

～とくちゃんの農小レポート～

「校旗が新しくなったよ」

1 午前の授業

- * 畑の草取りと手入れ。この時期は雑草が多く手入れが大変です。
- * 収穫。大根。レタス。小松菜。二十日大根。
- * 植付け。とうもろこし。サニーレタスは各班ごとに。
トマト、パセリ、オクラ、スイカ、キウリは全体で。
校長先生が持参した苗の種類は、沢山ありましたが解りましたか？
一度には覚えられませんが、良く観察して下さいその内解りますから。

2 昼食

- * ほうば寿し。吸い物。ブロッコリーと赤玉ねぎサラダ。漬物。揚げ空豆。
ご存知ない方もあるかと思いますが、ほうば寿しは朴の木(版画材)の葉っぱに寿司めしと具をのせた、当地方独特の季節郷土料理で、この時期には欠かせないご馳走の一つです。
結構手間が掛かかりますが、今回は大勢のお母さんがお手伝いしました。

3 午後の授業

- * 茶摘み。午前に予定の茶摘が午後からとなり、各班が三箇所に分かれて茶摘み体験をしました。1～2班はすぐに「お茶もみ」に入りました。
鍋で炒った葉を蒔(むしろ)の上に置き手のひらで揉みます。
- * 紙漉き。茶摘のあと3～5班は紙漉きに挑戦しました。押し花を用意した人もいましたが、中には学校周辺の生の葉や花を利用した人もいました。次回は「押し花」教室を先にやったほうが良いのかも・・・。
出来た「はがき」は誰に出すのでしょうか？
- * 後半は各班が入替わり、「お茶もみ」と「紙漉き」を行いました。
揉んだお茶は家に帰り、陰干しの後フライパンで軽く焙じて利用します。

4 おやつ

ほうば餅。ひねり餅。
この地方には柏葉がないので、かしわ餅と同じ要領で朴葉を使って作るのが「ほうばもち」で、子供の頃はとても楽しみなおやつでした。

5 持ち帰り

大根。レタス。小松菜。廿日大根。
安保兄提供の小玉ねぎは、料理のアイデア募集用だそうです。みなさんからの「小玉ねぎレシピ」をお待ちしていますのでよろしく。

～とくちゃんのちょっと一言～

皆さんの植えた「かぼちゃ」に花が咲きました。二人の生徒の株には雌花が咲いていましたが、はたして受粉出来ているのでしょうか？ かぼちゃは雄花が先に沢山咲き後から咲く雌花を待っています。それを蜂や蝶が媒介しますので、折角花が咲いても媒介してくれるものが居ないと結実しません。

ある家庭では雄花が無いということで、農小の畑から雄花を持参させましたが、うまく受粉させることが出来たでしょうか？

ちなみに「りんご」は一個ずつ受粉させるための作業があり、りんご農家にとっては大変な仕事のひとつとなっています。

～あぼ兄の百姓ばなし～

「農業小学校の輪が広がる」

6月23日、信州須坂市・松本市・高山市・中津川市にある4校の農業小学校の交流会が高山市の荒城農小の呼びかけで開かれ、我が校から8名が参加した。「みんなの農業小学校 これからも農小を続けんかな」をメインテーマに情報・意見交換をした。

第1部の最初は各校の発表であった。

今回お世話になった「荒城農業小学校」は高山市国府町の「荒城体験交流館」の中にあり、大きな建物内のホールや調理室・体験室の他に立派な炭焼き窯・ピザ窯などゆきとどいた施設に驚く。市内の子どもが対象で、3月から1月まで月に1～2回の授業日。子ども達が農業体験をとおして、「生きる力」を身につけると共に食と農の知識や郷土の自然・文化を学ぶ。平成14年4月開校。

「信州すざか農業小学校豊丘校」は市長の公約で計画され、4中学校下の中でモデル校として平成17年4月に開校した。校下だけでなく市内全域の子どもが対象で、授業料を除き必要経費は市教育委員会が負担し、事務局も受け持つ。管理運営は「農家先生の職員会」で行われ、月2回、農業体験だけでなく地域の自然に親しむとともに伝統文化を学ぶ。収穫した野菜を調理して食べる。

松本市の「おうしょうの里農業小学校」は桜柿羊の里農事組合の「りんごのほっぺから白寿まで笑顔が満ちる故郷づくり」の村づくり事業の一環として、平成13年に開校した。参加は家族単位で、信州大学の学生60名がサポーターとして加わり、多世代間の交流から体得される知育・食育等の環境提供を目的としている。

椋の湖農小はあぼ兄が発表。田畑を耕し種を蒔き土にまみれて作物を育て、自分の心も広げること、食べ物に感謝し大切にすること、物作り、都市とのふれあい交流の輪を広げ

ることなどを報告するはずだったが、「何故農小を作ろうとしたか」「農小を立ち上げるまでの苦労話・エピソード」にふれ、あれもこれも話そうとしてしまった。夢はあっても金の無い10人の発起人、どこからも出ないお金、手探りでやってきたことなど思いが一度に溢れてしまった。

小林さんを初め仲間達が又長話になるのではと心配したそうだが、ピタッと20分の時間内に終わって誉められた。それもそのはず、会場の最後列で進行係が「あと5分・3分・1分」と表示をしていたからのこと。まるで青年の主張の気分だった。

お昼は三色おにぎり、豚汁そしてサラダ、漬物などなど。須坂土産のおやきも美味しくいただいた。

午後は信州大名誉教授の玉井袈裟男先生の講演「みんなで農業小学校」

先生は7年前に椈の湖へ来て『初めて見た農業小学校というもの』の話をされた。『自然の中で目が輝き、はじけるように明るく走り回っていた子ども達。一方先生役のおばあさん達はまるで女学生達が遠足に行った時のようにはしゃいでいた。』さらに生徒数114名だった当時の農小の光景を鮮明に話された。『感銘を受けた』先生はその後何回か大きなバスで農小の見学者を引率してこられ、その時の紹介はいつも「これがアホ兄とって、もの事を深く考えずに走る人で、周りにいる人たちが・・・」と言われていた。関西では悪口を言いながら人間関係を作っていくと聞いた時から、先生に「アホ、アホ」と言っていたのが嬉しくなってきた。今回も「アホ兄」の名が何回も出た。

「たがやし、ひとなる」椈の湖農小の合言葉も何回も出た。「ひとなる」は東濃地方の方言ではなく、電子辞書でも引ける共通語であると言われた。(ただ、この地方では「ひとなる=育つ・成長する」「ひとねる=育てる」等と常用されているが、全国どこでも使われていると言うわけではないらしい。ちなみに、三市とも使わないとのことだった。)

先生は「たがやし、ひとなる」は農業小学校の活動を一言で言い当てている言葉だと誉めてくださったのだ。先生の話をお聞きながら農小を立ち上げる前に「田畑を耕し米や野菜を育てながら、汗を流した子ども自身も心を耕し大きく育ててほしい」と願って、この言葉にこだわった事を思い出していた。前校長の鎌田宮雄先生は地元で教師を永く勤められていたことから、鎌田先生の願いが多く入っていたと思う。すばらしい言葉をモットーにしていたと今改めて思う。

分科会のテーマは自由。参加者全員が5分科会に分かれて、それぞれの農小の特に力をいれていること、課題・悩みとして抱えていることなど発表しあった。又雨の時の対策メニューなどについても情報交換をした。公立の農小は施設やスタッフに恵まれ資金の心配も無くて良いのかと思えば、行政のトップが替わった場合にはその考え次第で存続が危ぶまれることもありうるとのこと。

第2部は楽しみの懇親会。地酒などを持ち寄って、飲食しながら情報交換の続きをした。お酒が入って本音が出たり、気分もくだけて一層親交を深めることが出来た。

今回の交流会を成功させていただいた荒城農小の皆さんに感謝したい。

そして、今回集まった4校のつながりは玉井先生のお世話・お力のおかげ、つまり先生の人脈で広がったもので、改めてありがたさを実感した。